

熊本県立八代高等学校 令和5年度(2023年度)学校評価表

1 学校教育目標

「令和5年度(2023年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」及び「学校安全・安心推進課取組の重点」を基盤として本校の綱領である

- ・「誠実にして真理を愛する」 To love truth, being sincere.
- ・「自律を旨として協和を重んずる」 To respect harmony, being self-determined.
- ・「闊達にして進取の氣象を尚ぶ」 To develop a spirit of enterprise, being broad-minded.

を教育理念の根底におき、生徒の知性と品性、豊かな感性と闊達な行動力を育むとともにグローバルな視野を切り拓く教育を実践する。

2 本年度の重点目標

八代高校・八代中学校のさらなる魅力化

- ① 確かな学力の土台となる授業力の向上(学びの深化)
- ② 豊かな人間性を育む多様な教育活動(自律と協働)
- ③ 世界とつながるグローバル人材の育成(進路の進化)
- ④ 地域との連携(高い情報発信力)
- ⑤ 生徒理解の促進(一日1人面談)

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	グローバル人材育成	◇グローバルマインド並びにグローバルスキルの向上	○実践的英語発信能力の育成を図ると同時に、各種自己研鑽活動・社会貢献活動に自発的に参加する態度を育成する。 ○グローバルな視点をもって地域の発展に貢献するグローバル人材を育成する。	・即興型英語ディベートやオンライン英語研修等の実施、外国語資格取得を推奨する。 ・グローバルアクション通信を発行し、自己研鑽活動等への参加奨励を行う。 ・各種講演会等(知の触発プログラム)を実施する。 ・「探究(総合的な探究の時間)」において、SDGsの達成を目指した地域活動と課題研究を実現させる。	A	・授業での即興型英語ディベート、また、実用英語検定への指導を行った。海外研修の再開に向けた準備を行い、在校生及びその保護者へ周知した。 ・多くの生徒が清掃活動や地域のイベントボランティア等に参加した。 ・各学年、進路指導部等の主催で様々な講演会を実施した。 ・KSHではステージ発表1班、ポスター発表6班と昨年と比較して多数の生徒が発表した。
	情報発信	◇職員情報発信力の向上、並びに八代高校への志願者増加	○本校の教育活動や生徒の様子等をタイムリー、かつ、継続的に発信し、本校の魅力を伝える。 ○9月時点での本校志願者数200名以上(中進生を除く)	・全職員による八代高校魅力発信プロジェクトを計画、実行し、近隣中学校への訪問活動を行う。 ・HP掲載内容の刷新、SNSでの情報発信等の検討を行う。	B	・各中学校主催の上級学校説明会への参加、学校案内や募集要項の配付等全職員で取り組むことができた。9月時点での志願者数は目標値を上回る事はできなかったが、目標値に近い値であった。 ・HP及びSNSの掲載内容の更新を頻繁に行った。
	業務改善及び働き方改革の推進	◇勤務時間の適正管理 ◇業務の削減・効率化	○月の時間外在校等時間平均を前年度比で10ポイント削減する。 ○校務においてICTを活用し、配付資料や会議資料のペーパーレス化を進めたり、専門家を有効活用し、計画的に業務を遂行する。	・タイムカード等による勤務時間の適正管理等に加え、各部署長や管理職による業務進捗管理を行う。 ・ゆうネットやGoogleアプリを活用した情報共有を推進し、業務効率化を進める。 ・SC、SSW、部活動指導員等の専門的人材を積極的に活用する。	B	・タイムカード等により在校時間を把握し、長時間勤務が認められる教職員には管理職による面談を行うとともに、必要に応じて産業医による面接を行った。 ・月の時間外在校等時間平均(4月～12月)は、昨年度51時間36分から今年度47時間3分になり、前年度比7.5%減少となった。 ・スクールカウンセラーの活用については12月までに計45件の相談があった。 ・部活動指導員を2人配置し、生徒の技術の向上や教職員の負担軽減に成果を上げている。

学力向上	教師の指導力向上	◇思考力、表現力、判断力の育成、学びに向かう力や人間性の涵養を踏まえた授業改善	○生徒による授業評価において、思考や表現等を伴う主体的学習の充実、ICT活用等による「わかる授業」の実践についての評価の平均が3.2(4段階評価)を超える。	・授業力向上のための教科等研修会への参加を推進するとともに、本校所属のスーパーティーチャーの指導を受ける機会を提供する。 ・生徒による授業評価を年2回実施し、授業改善のPDCAサイクルを構築する。 ・職員間の公開授業週間を設定し、個々の授業改善につなげる。 ・職員の希望に応じ、ICTを利用した授業を行うための研修を行う。	A	・公開授業週間を年に2回設け、スーパーティーチャーの授業を受ける機会を提供した。また、教科毎に研究授業を行った。 ・各学期毎に授業評価を行い、ICTの活用が3.44、授業に集中できているの項目が3.48であった。 ・ICTの研修はすぐーる、デジらく採点等の研修を行った。
	生徒の自発的な学習の促進	◇授業と家庭学習における予習・復習を連動させた学習指導の展開	○学年ごとの目標学習時間を設定し、過半数の生徒が目標を達成する。	・各学年における適切な目標学習時間を設定する。 ・各教科において、週末課題など家庭学習の支援を行う。 ・朝の振り返りを実施し、家庭学習の指導に活用する。	B	・朝の振り返りシートを用いた家庭学習時間の調査を行った。目標時間に届いていない生徒の方が多数であるため、生徒への声かけなどが必要である。
キャリア教育(進路指導)	生徒の進路観、職業観の育成と志望大学選択の指導	◇Googleドライブを活用した個人の成長記録を蓄積 ◇担任団や他部署との協働による進路指導	○将来の学び、社会での活躍場面まで考えさせ、志望大学決定のプロセスを充実させる。在学中本校のプログラムに積極的に参加させ、自己の成長を意識させる。	・低学年より一貫して成長をサポートする。知の触発プログラムの一環として講演会やワークショップを他部署と協力して実施する。	A	インターンシップを1学年に実施し、多くの生徒が参加した。グローバルアクションミーティングを企画し、生徒と職業人の座談会を実施した。学問講座鳳雛に代えて、生徒が主体的に学問について学べるグローバルアカデミックリサーチを企画・実施した。「進路の手引き」、「道」を通して、大学入試改革やポートフォリオ作成について情報を発信した。
	入試改革および新課程に対応する確かな学力を身につけさせる指導	◇6年間の進路指導グランドデザインの完遂 ◇職員の教科指導力向上と授業改革	○求められる学力を育成するための6年間の指導方針の完成。 ○他の部署、学年、教科と連携し、生徒が志を高く目標を設定し堅持する態勢を作る。	・入試改革関連の情報を提供し、進路を考えさせるための仕掛けを多様な形で実施する。 ・全職員が最新の入試動向を理解し、授業改革および教科の指導力向上に努める仕掛けを用意する。	B	各教科で大学入試問題分析を行い、最新の入試動向、生徒に求められる力について理解を深めた。学力分析会を企画し、模擬試験、スタディサプリ到達度テストの結果を分析、検討し、生徒の学力向上や進路意識の高揚に向けて方策を考えた。
生徒指導	自由と規律に基づく自律的な行動	◇自ら適切に判断し、行動しようとする態度の育成	○自己教育力を身につけ、常に5分前行動、挨拶の励行、服装・頭髪の整美ができる生徒を育成する。	・見直された校則をもとに、全職員での共通理解を図り、不公平感のない指導を行う。 ・日頃から服装の整美、時間厳守、挨拶を自ら考え行動できるように指導する。	B	・社会環境や生徒の状況変化に応じて服装等に関する校則の見直しを行った。特に部活動後、下校時の服装に関しては生徒の実情に即した変更となった。 ・時間厳守や挨拶については継続的な指導が必要である。
	生徒の危機管理能力の向上	◇交通マナー向上、交通事故の防止 ◇情報モラルに係る危機管理能力の向上	○今年度の交通事故件数を10件以下にする。 ○ネット上の問題事案をゼロにする。	・学校周辺の交通危険箇所を示し、マナーの向上と安全教育の徹底を図る。 ・ネットモラルと危機管理能力を向上させ、ネット上のいじめ等の問題事案をなくす。	B	・大きな交通事故はないが、車や自転車同士の軽微な接触事故が8件あった。長期休業前の諸注意で交通ルール遵守を注意喚起した。 ・SNS上でのトラブルが継続している。紙面による注意喚起や情報教育講演会等を実施しながら保護者を含めた生徒への警鐘を続ける必要がある。

	人権問題の正しい認識と差別をなくす実践力の育成	◇地域の人権課題の実状を踏まえた人権意識の向上 ◇人権問題に関わる実践力を高めるための中高一貫6年間を見通した各学年の目標設定と取組	○部落差別をはじめ、あらゆる差別の解消に取り組む生徒を育成する。 ○職員一人一人が人権問題に関する基本的認識を踏まえ、主体的に人権教育を推進する。	・人権部落問題学習(1回)及び校内人権集会(2回)を実施するとともに、地域の子ども人権集会への参加を呼びかける。 ・八代地区人権同和教育・人権啓発研究集会(原則全員)及び現地研修会(新転任者及び希望者)に参加する。 ・人権教育通信を学期2回以上発行し、啓発を図る。	A	・人権部落問題学習を各学年で企画し、いじめ問題や八代市の部落問題、統一応募用紙の精神等、生徒の人権意識の向上を図った。一方、人権集会では、SNSでの差別や部落差別に関して当事者の講話を聞き、部落問題の基本的な認識を再確認すると共に、SNSの問題点を確認することができた。 ・八代市の研究集会や、本校独自企画の現地研修会に参加し、地域の部落問題について深く学び、自らの実践を振り返った。 ・人権教育通信を年間8回発行し、人権に関する啓発に努めた。
人権教育の推進	生徒が適切な教育上の支援を受けられる体制の整備	◇個々の多様性(障がいの有無や性別の違いなど)を認識してお互いを支え合い、すべての生徒が生き生きとした学校生活を送るための取組	○支援を要する生徒の実態把握と職員間における共通理解に努め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な支援を図る。 ○合理的な配慮を明記した個別の特別支援計画及び指導計画を保護者、医療機関と連携して立てるとともに、進級や進学・就職に際し、引き継ぎを確実に進行。	・教育相談週間を設け、丁寧に生徒の状況を把握するとともに、授業時や学校生活の中でのかめ細やかな観察を通じた情報収集をもとに、生徒理解研修を年2回実施する。 ・定期的に人権教育推進部会を開催し、情報共有を図るとともに、特別支援教育委員会を適宜開催する。 ・個別の教育支援計画及び指導計画を立て、それに基づき具体的な支援を進める。	A	・支援を要する生徒に関する情報を、学期ごとの生徒理解研修で共有するとともに、支援のあり方に関して職員の共通理解を図った。また、教育相談週間や学年会、人権教育推進部会において週1回生徒の情報交換を行い、支援状況の確認や教育支援計画の見直しなど丁寧に対応を行った。 ・特別支援教育委員会を適宜開催し、協議の上、対象生徒の個別の教育支援計画を作成し、保護者と連携して合理的な配慮を行い、支援体制を整えた。また、支援員との連携を密にし、対象生徒の支援に努めた。
	命を大切に育む指導	◇自他の生命を尊び、大切にしていこうとする態度の養成 ◇自らの在り方生き方を学び、夢や目標の実現に向けて努力する態度の育成	○すべての教員が学習活動において生徒の人権感覚を育む指導を行う。 ○社会貢献活動や自己研鑽活動を通し、生命や自然に対する畏敬の念を高める。	・自らの教科において人権教育と関連する学習内容を確認するとともに、人権感覚を高める学習指導を行う。 ・ボランティア活動や自己研鑽活動への積極的な参加を促す。	A	・職員研修において、部落差別の問題点をはじめ、人権感覚を磨くために必要な人権問題全般の情報更新をすることができた。一方で、日常的に人権意識を持って教育活動を行う重要性を改めて共有できた。 ・人権集会やLHR、人権教育通信などを通じて、被差別の状況にある当事者の思いに触れさせ、人権意識の高揚を図った。
いじめの防止	いじめの予防と発生した際の早期発見と対応	◇いじめを未然に防ぐための予防的取組 ◇いじめの早期発見と早期対応	○日常の授業や面談を通して生徒の状況を的確に把握し、生徒の言動や態度の変化を観察し、各学年部で情報を共有する。 ○定期的なアンケート調査により、いじめの早期発見に努める。	・学期に1回「心のアンケート」を実施し、いじめの防止・早期発見に努めるとともに、必要に応じていじめ防止対策小委員会を開催して情報共有と対応を話し合う。 ・学期に1回いじめ防止対策委員会を開催し、スクールカウンセラーや関係機関との連携を図り、実態把握と対応策を協議する。	B	・学期に1回行う心のアンケートや教育相談週間をもとに生徒の実態を的確に把握するとともに、問題の早期解決のため個別面談、周囲への聞き取りやいじめ防止対策小委員会等を行い対応した。今後、さらに早期発見・早期対応に努め、組織として問題解決に取り組み、生徒が安心して学校生活を送れるよう、実効性がある工夫した取組が求められる。 ・いじめ防止対策委員会を学期に1回開催し、アンケートの集計と各学年・各部署の取組を共有し、いじめの防止と対策に努めた。また、スクールカウンセラーや関係機関と連携し支援体制の構築を図った。
地域連携(コミュニティスクールなど)	コミュニティスクールの活性化	◇地域とともにある学校づくり	○総合型コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を通して、スクール・ミッションやスクール・ポリシーをはじめとする目指すべき生徒像の共有を図り、地域と連携・協働した取組を推進する。	・「探究(総合的な探究の時間)」において、地域と連携した探究活動を実施する。 ・地域の理解と協力を得ながら、防災教育を進め、生徒の安全・安心を確保する。	A	・地域の方々の協力を得ながら探究活動に取り組むことができた。学校評価アンケートでも生徒97%、保護者88%が肯定的な回答である。 ・1学期にシェイクアウト訓練。2学期には地震を想定した訓練を実施。2学期は実施予定日を知らせずに行うことで緊張感があり、より実践的に行えた。3学期では津波を想定した訓練を実施する。

4 学校関係者評価

- ・令和5年12月、保護者及び生徒、教職員を対象に学校評価アンケートを実施した。評価項目数は、保護者21項目、生徒19項目、教職員24項目であり、評価平均は保護者3.0、生徒3.4、教職員3.4(4段階)であった。
 - ・三者とも「ボランティア活動や社会貢献活動」「総合的な探究の時間」における評価は高かった。
 - ・一方、「家庭学習時間の確保(生徒)」や「宅習時間調査を活用した指導(教職員)」では評価が低かった。
- ・今年度重点的に取り組んだ「情報発信」について、「本校の教育活動や生徒の様子等を、タイムリーに発信し、本校の魅力を伝えていく」という項目については、保護者2.9、生徒3.1、教職員3.6という結果であった。
- ・令和5年11月、協議会委員を3つに分け、学校運営支援委員会、防災対策支援委員会、地域連携支援委員会を開催。
 - ・中学の学校説明会の参加者が昨年度より少なかったのは少子化の影響か。海外研修の復活が望まれるのではないか。
 - ・国際バカロレアの導入においては、様々な取組が行われ充実している。
 - ・宅習時間については、時間を伸ばすだけではなく質の向上を促してほしい。
 - ・八高生は舞台が与えられたらものすごく頑張る。
 - ・探究で調べた防災の内容を地域の子供たちに教えていくと連携につながる。
 - ・自転車のマナーでは、右側通行やイヤホンを使用したままの登校が見られ危険である。ルールの徹底について指導をお願いしたい。
- ・令和5年12月25日、第2回学校運営協議会を開催。内容は、11月の委員会の報告と情報共有。以下は、委員からの主な御意見等。
 - ・生徒が作成している本町アーケードの防災マップに期待している。
 - ・自転車のヘルメット着用率はどれくらいであるか。
 - ・月に1回街頭補導を行っているが、高校生が補導されることがある。
 - ・市のイベント等に高校生が参加しており、協力に感謝している。
- ・令和6年2月15日、第3回学校運営協議会を開催。内容は、今年度の学校評価と次年度の計画。以下は、委員からの主な御意見等。
 - ・探究活動などで発表など前に出て体験することは将来の自信につながる。
 - ・朝の振り返りシートの活用を期待する。
 - ・SNS上のトラブルについて、早期の把握と対応をお願いしたい。
 - ・生徒理解において、1日1人面談などで生徒との距離感が感じられなくなることを望む。
 - ・校則の見直しにおいて、下校時の服装が部活動着を許可したことで、八高生と分からなくなっている気がする。
 - ・本年1月1日に能登半島地震が発生し、石川県を中心に甚大な被害となった。八代市もいくつか大きな地震が発生してもおかしくない状況であり、先生方・生徒のみなさんの防災意識の向上と、訓練の実施を次年度も引き続きお願いしたい。
 - ・自転車のヘルメットの取り扱いについては、市と連携して取り組むことができると良い。
 - ・勉強という言葉にはネガティブ感がある。自分が持っている能力を引き出す、というイメージが必要。

5 総合評価

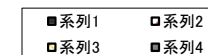
- ・本年度は、重点目標として「① 確かな学力の土台となる授業力の向上(学びの深化)」「② 豊かな人間性を育む多様な教育活動(自律と協働)」「③ 世界とつながるグローバル人材の育成(進路の進化)」「④ 地域との連携(高い情報発信力)」「⑤ 生徒理解の促進(一日1人面談)」を掲げ、教育活動を行ってきた。
 - ・「3 自己評価総括表」で掲げた14の小項目については、保護者、生徒、教職員による学校評価アンケートや学校運営協議会委員の御意見等を踏まえ、A評価7、B評価7(前年度は、A評価4、B評価9、C評価1)とした。
 - ・「①学びの深化」について、小項目「教師の指導力向上」では、授業評価や公開授業週間の実施、ICT研修等を行い、生徒による授業評価では、授業改善の工夫において昨年度より評価が上がった。一方、生徒の宅習時間は、各学年で設定した目標時間を達成できない学年もあった。学校評価アンケートでも、学習意欲を喚起する取組(保護者)や家庭学習時間を確保できていない(生徒)、宅習時間調査を家庭学習等の指導に活用(職員)の項目で評価が低く、本校の課題の一つと考えられる。
 - ・「②自律と協働」について、大項目「地域連携」に記載のとおり、地域の協力を得ながら探究活動に取り組むことができ、次年度以降も探究活動等を中心に、地域と連携を図りながら教育活動を推進していきたい。
 - ・「③進路の進化」について、小項目「グローバル人材育成」では、講演会を複数回実施したり、生徒が探究活動を発表する機会を多く計画するなど、様々な取組を行うことができた。また、小項目「生徒の進路観、職業観の育成」では、グローバルアカデミックリサーチを開催し、新たなキャリア教育を進めることができた。
 - ・「④高い情報発信力」について、小項目「情報発信」では、本校の志願者増を目標に、全職員で「八代高校魅力発信プロジェクト」において地域の中学校への訪問回数等を増やす等の取組を行った。実際、出願倍率が1.18倍(出願者数196名)であった。
 - ・「⑤一日1人面談」について、小項目「生徒が適切な教育上の支援を受けられる体制の整備」では、教育相談週間の実施や生徒理解研修の実施から、生徒一人一人への支援に取り組むことができた。

6 次年度への課題・改善方策

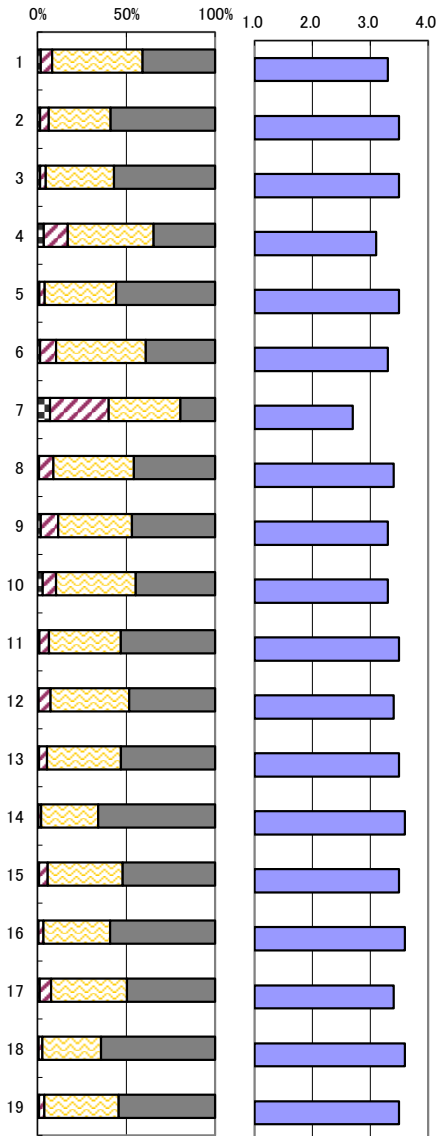
- 次年度への主な課題と改善方策は次のとおり。
 - ・昨年度導入した「スタディサプリ」については、活用方法を分析し、生徒の学力向上や進路意識の高揚に方策を再度検討する。
 - ・宅習時間については、毎朝の振り返りシートの活用方法を再検討するとともに、授業改善にも生かしていく。
 - ・進路指導においては、卒業生や同窓会等と連携し、上級学校進学後の進路状況(大学院進学や就職等)を把握し、生徒のキャリア教育につなげる方策を検討する。
 - ・生徒指導においては、日常的な挨拶や自転車利用時のマナー等への指導を重視し、心身ともに健全な生徒の育成を進める。
 - ・防災教育においては、近隣学校や住民と連携した住民参加型の防災訓練の実施を検討する。
 - ・本校の魅力づくりについては、「八代高校魅力発信プロジェクト」の検証を行い、次年度の説明会や生徒募集等に生かし、情報発信を推進していく。
 - ・業務改善や働き方改革の推進については、タイムカード等による勤務時間の適正管理を進めるとともに、ICTを活用した業務の効率化、SCやSSW、部活動指導員(外部コーチも含む)の積極的な活用を進めていく。

令和5年度 学校評価 集計表 <生徒>(高校)

① 全く当て はまらない (1点)	② あまり当て はまらない (2点)	③ やや当て はまる (3点)	④ よく当て はまる (4点)	回 答 数	平 均	R 4 平 均
----------------------------	-----------------------------	--------------------------	--------------------------	-------------	--------	------------------



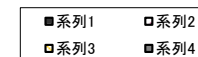
① 学校では、英語力を高める取組や、外国語資格取得に向けた支援が行われている。	1.9	6.4	50.9	40.8	534	3.3	3.2
② 学校では、ボランティアや社会貢献活動などの体験的活動への参加の紹介が行われている。	1.5	4.9	34.8	58.8	534	3.5	3.4
③ 学校では、「探究（総合的な探究の時間）」において、SDGs（持続可能な開発目標）の達成を目指した活動が行われている。	1.5	3.2	38.4	56.9	536	3.5	3.5
④ 本校の教育活動や生徒の様子等を、タイムリーに発信し、本校の魅力を伝えている。	3.6	13.5	48.3	34.6	534	3.1	3.0
⑤ 学校では、生徒同士で学び合う場面の設定や、積極的にICTを活用した授業が行われている。	1.1	3.0	40.2	55.7	535	3.5	3.4
⑥ 学校では、生徒の学力を伸ばすため、授業改善等の工夫を行っている。	1.5	9.0	50.5	39.0	531	3.3	3.1
⑦ 私は、目標とする家庭学習時間を確保できている。	7.1	33.0	40.3	19.5	533	2.7	2.7
⑧ 学校では、総合的な探究の時間やLHRなどで、進路を考える学習活動が行われている。	0.9	8.1	45.3	45.7	534	3.4	3.3
⑨ 学校では、入試改革関連等の進路情報が提供されている。	1.9	9.8	41.5	46.8	532	3.3	3.3
⑩ 学校では、先生方の共通理解のもと、不公平感のない生徒指導が行われている。	3.0	7.5	44.9	44.7	535	3.3	3.2
⑪ 私は、日頃から服装の整美、時間厳守、挨拶を心がけている。	1.1	5.4	40.4	53.0	534	3.5	3.4
⑫ 学校では、交通安全についての啓発活動が行われている。	0.7	6.7	44.2	48.3	534	3.4	3.3
⑬ 学校では、情報モラルについて学ぶ機会がある。	0.9	4.5	41.6	53.0	534	3.5	3.3
⑭ 学校では、人権の大切さについて学ぶ機会がある。	0.6	1.5	32.1	65.8	535	3.6	3.5
⑮ 先生方は、生徒の悩みや相談に親身になって応じてくれる。	0.9	4.9	42.2	52.0	531	3.5	3.3
⑯ 学校では、命の大切さについて学ぶ機会がある。	0.6	2.8	37.5	59.1	533	3.6	3.2
⑰ 学校でのさまざまな活動において、いじめを防止する取組や配慮がなされている。	1.3	6.4	42.7	49.6	534	3.4	3.2
⑱ 「探究（総合的な探究の時間）」等において、地域と連携した探究活動が行われている。	0.7	2.1	33.0	64.2	534	3.6	3.5
⑲ 学校では、防災避難訓練や防災について学ぶ機会がある。	0.9	3.0	41.8	54.2	531	3.5	3.3



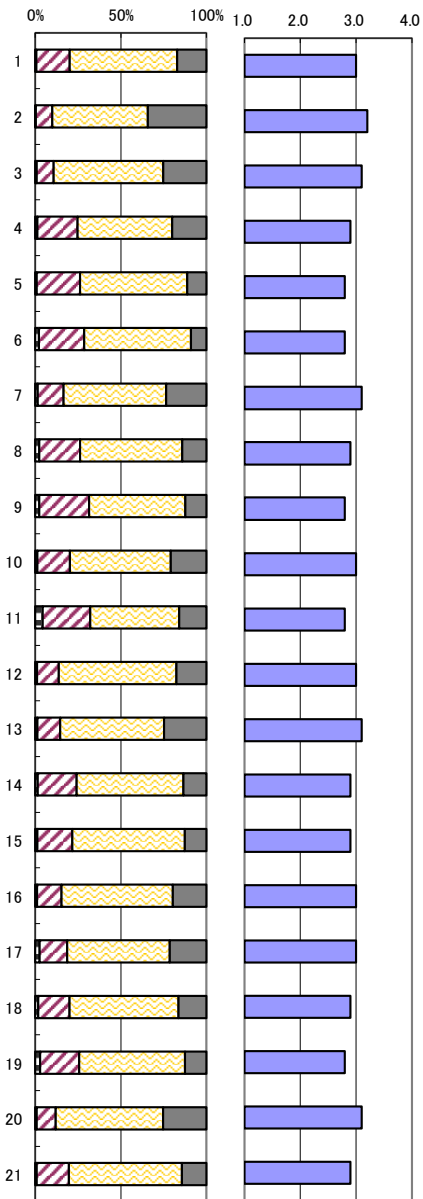
(%) (人)

令和5年度 学校評価 集計表 <保護者> (高校)

① 全く当て はまらない (1点)	② あまり当て はまらない (2点)	③ やや当て はまる (3点)	④ よく当て はまる (4点)	回 答 数	平 均	R 4 平 均
----------------------------	-----------------------------	--------------------------	--------------------------	-------------	--------	------------------



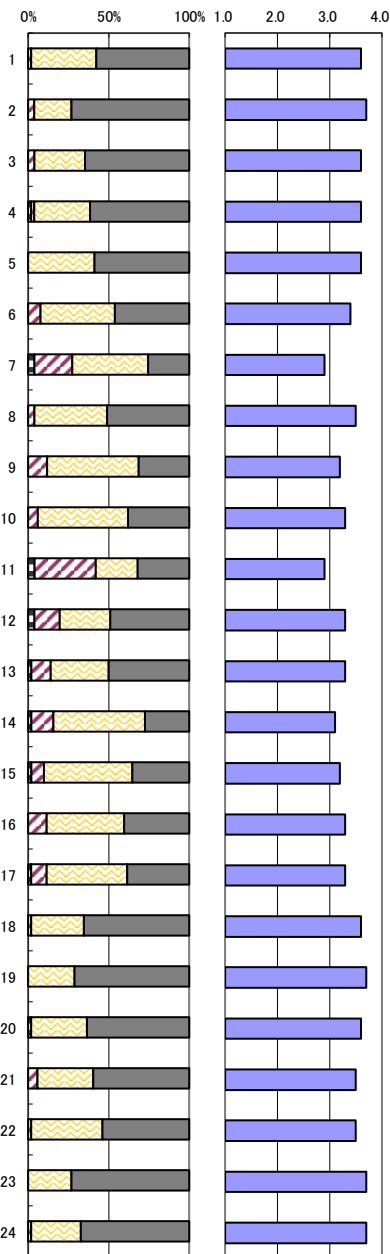
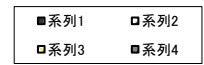
① 学校では、実践的英語力の育成のための取組や、外国語資格取得に向けた支援が適切に行われている。	0.7	19.5	62.8	17.1	457	3.0	2.9
② 学校では、ボランティアや社会貢献活動などの体験的活動への参加の紹介が行われている。	0.4	9.6	55.8	34.2	459	3.2	3.2
③ 学校では、「探究（総合的な探究の時間）」において、SDGs（持続可能な開発目標）の達成を目指した活動が行われている。	0.9	9.9	64.0	25.2	456	3.1	3.1
④ 本校の教育活動や生徒の様子等を、タイムリーに発信し、本校の魅力を伝えている。	1.3	23.5	55.3	20.0	456	2.9	2.9
⑤ 学校における働き方改革が推進され、職員の勤務時間の適正化、心身の健康の維持増進が図られていると感じる。	0.9	25.3	62.6	11.2	447	2.8	—
⑥ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、部活動指導員等の専門的人材が積極的に活用されている。	2.2	26.4	62.3	9.0	454	2.8	2.8
⑦ 学校は、保護者に授業参観や公開授業の機会を適切に設けている。	1.5	15.1	59.9	23.5	456	3.1	2.8
⑧ 学校は、生徒の学力を伸ばすため、授業改善等の工夫を行っている。	2.4	23.8	59.6	14.1	453	2.9	2.8
⑨ 学校は、生徒の学習意欲を喚起する取組を行っている。	2.4	29.1	56.2	12.3	454	2.8	2.7
⑩ 学校は、生徒が自らの進路について考える取組を行っている。	1.3	19.0	58.9	20.8	457	3.0	2.9
⑪ 学校では、入試改革関連等の進路に関する情報を保護者に適切に提供している。	4.4	27.8	52.0	15.9	454	2.8	2.8
⑫ 学校は、生徒の実態や人権尊重の立場から適切な校則を設けている。	1.1	12.7	68.7	17.5	457	3.0	3.1
⑬ 子どもは、日頃から服装の整美、時間厳守、挨拶をしている。	1.3	13.3	60.6	24.7	457	3.1	3.1
⑭ 学校では、交通安全についての啓発活動が行われている。	1.5	22.7	62.3	13.4	454	2.9	2.8
⑮ 学校では、情報モラルについて学ぶ機会がある。	1.3	20.4	65.7	12.6	452	2.9	3.0
⑯ 学校では、人権の大切さについて学ぶ機会がある。	1.1	14.3	65.0	19.6	454	3.0	3.0
⑰ 先生方は、子どもの悩みや相談に親身になって応じてくれる。	2.6	16.1	59.9	21.4	454	3.0	3.0
⑱ 学校では、命の大切さについて学ぶ機会がある。	1.8	18.3	63.7	16.3	454	2.9	2.9
⑲ 学校でのさまざまな活動において、いじめを防止する取組や配慮がなされている。	2.9	22.8	61.8	12.5	456	2.8	2.8
⑳ 「探究（総合的な探究の時間）」等において、地域と連携した探究活動が行われている。	0.9	11.1	62.7	25.3	450	3.1	3.1
㉑ 学校では、防災避難訓練や防災について学ぶ機会がある。	0.9	18.8	66.0	14.3	453	2.9	2.8



(%) (人)

令和5年度 学校評価 集計表 <教職員>(高校)

	① 全く当て はまらない (1点)	② あまり当て はまらない (2点)	③ やや当て はまる (3点)	④ よく当て はまる (4点)	回 答 数	平 均	R 4 平 均
① 学校は、実践的英語力の育成のための取組や、外国語資格取得に向けた支援を適切に行っている。	0.0	1.9	40.4	57.7	52	3.6	3.3
② 学校は、ボランティアや社会貢献活動などの体験的活動への参加の紹介を行っている。	0.0	3.8	23.1	73.1	52	3.7	3.6
③ 学校は、「探究（総合的な探究の時間）」において、SDGs（持続可能な開発目標）の達成を目指した活動を行っている。	0.0	3.9	31.4	64.7	51	3.6	3.6
④ 本校の教育活動や生徒の様子等を、タイムリーに発信し、本校の魅力を伝えている。	1.9	1.9	34.6	61.5	52	3.6	3.2
⑤ 近隣中学校への訪問活動（八高魅力発信プロジェクト等）を行い、中学校との情報共有を行った。	0.0	0.0	41.2	58.8	51	3.6	3.4
⑥ タイムカード等による勤務時間の適正管理、管理職や産業医による面接体制が整っている。	0.0	7.7	46.2	46.2	52	3.4	3.2
⑦ Googleアプリを活用した情報共有により、業務効率化が図られている。	3.9	23.5	47.1	25.5	51	2.9	2.9
⑧ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、部活動指導員等の専門的人材が積極的に活用されている。	0.0	3.9	45.1	51.0	51	3.5	3.3
⑨ 学校は、授業力向上のための教科等研修会に参加する機会を適切に提供している。	0.0	11.8	56.9	31.4	51	3.2	3.0
⑩ 私は、職員間の授業見学や生徒による授業評価等を通して、授業改善に取り組んでいる。	0.0	6.0	56.0	38.0	50	3.3	3.2
⑪ 私は、宅習時間調査の結果を、家庭学習や読書等の指導に活用している。	4.0	38.0	26.0	32.0	50	2.9	3.0
⑫ 学校は、総合的な探究の時間やLHRなどを通して、進路を考える学習活動を計画的に行っている。	3.9	15.7	31.4	49.0	51	3.3	3.1
⑬ 学校は、入試改革関連等の進路情報を生徒及び保護者に対し適切に提供している。	2.0	12.0	36.0	50.0	50	3.3	3.1
⑭ 職員の共通理解を図り、学校として統一した生徒指導が行われている。	2.0	13.7	56.9	27.5	51	3.1	2.9
⑮ 私は、日頃から服装の整美、時間厳守、挨拶を指導している。	2.0	7.8	54.9	35.3	51	3.2	3.1
⑯ 学校は、交通安全についての啓発活動を行っている。	0.0	11.5	48.1	40.4	52	3.3	3.2
⑰ 学校は、情報モラル教育を計画的に行っている。	1.9	9.6	50.0	38.5	52	3.3	3.1
⑱ 学校は、生徒及び職員の人権意識の高揚を図る取組を適切に行っている。	0.0	1.9	32.7	65.4	52	3.6	3.5
⑲ 生徒理解研修等を通して、支援を要する生徒の実態把握と共通理解が図られている。	0.0	0.0	28.8	71.2	52	3.7	3.6
⑳ 個別の教育支援計画及び指導計画をもとに、必要な支援を適切に行っている。	1.9	0.0	34.6	63.5	52	3.6	3.4
㉑ 学校では、命を大切にすることを育む教育を適切に行っている。	0.0	5.8	34.6	59.6	52	3.5	3.3
㉒ 学校でのさまざまな活動において、いじめを防止する取組や配慮がなされている。	0.0	1.9	44.2	53.8	52	3.5	3.4
㉓ 学校は、「探究（総合的な探究の時間）」等において、地域と連携した探究活動を推進している。	0.0	0.0	26.9	73.1	52	3.7	3.6
㉔ 学校では、防災に関する取組を計画的に行っている。	0.0	1.9	30.8	67.3	52	3.7	3.5



(%) (人)